

戸隠にある神社

戸隠五社のうち、神社で終始あり続けたのは火之御子社のみです。奥社、九頭竜社、中社、宝光社の4つは、神仏習合のお寺として、様々な宗教の影響が入る修験道の修行の場所となっていました。

現在、これらの5社は独立しながらも関連のある、戸隠の神社となっています。戸隠を通る主要な道沿いに、宝光社・火之御子社・中社の3つがあります。奥社と九頭龍社へは、修験道に不可欠な山中の神聖な森を通って行くことになります。この2社には、徒歩でしかアクセスすることはできません。

奥社

戸隠の「奥の神社」である奥社の創建は、紀元前210年のことです。日本の神話において、戸隠山を作ったとされる神である、天手力雄命を奉斎した事に始まります。849年に学問行者が戸隠で修験道の実践を確立し、後に顕光寺となる戸隠寺を開山しました。これは神道と仏教の両方の側面をもったお寺でした。

明治初期（1868年）に神道と仏教が分離されたため、顕光寺は神社になり、以来は戸隠神社奥社として知られるようになりました。

現在は多くの人がこの神社を訪れ、幸運とスポーツでの勝利を祈っています。

九頭龍社

戸隠五社の中で最も古い九頭龍社は、元々は戸隠山の中腹の洞窟に位置する簡素な神社でした。またこの洞窟には、頭が9つある「九頭龍」が住むとされてきました。九頭龍は雨と水を司る神道の神であり、また虫歯と結婚の神でもあります。九頭龍社がいつ作られたかは、正確には分かっていません。

古代の戸隠の杉並木

「参道」と呼ばれる奥社へ行く道は、大きな木製の鳥居から始まり、何世紀にもわたって聖地とされてきた森の中を2km歩いていくことになります。道の途中には、藁葺きの屋根が付いた赤い門の随神門があります。随神門では、仏寺院の守護神である仁王が二体祀られていましたが、現在では神社の守護神である随神が祀られています。1710年に建てられたこの随神門は、戸隠神社に関連する、現存する最古の建造物とされています。

随神門の先には、奥社への道に沿って400年前に植えられた、300本以上のスギの木が並んでいます。奥社への道は、冬の最初の日（立冬）と春の最初の日（立春）の年に2回、道と朝日が一直線に並ぶように特別に設計されています。この道を囲む森は、長野県の天然記念物に指定さ

れています。